



立教大学経営学部 教授
経済学博士

高岡 美佳

京王グループのCSRレポートに第三者意見を寄せるのは今回で3回目となります。全体を通して、京王グループの安全・社会・環境に関する取り組み状況が分かりやすく伝えられている良いレポートだと思います。トップメッセージにあるように、2015年度、京王グループは、中期3カ年計画の初年度として、「鉄道事業の安全性・収益力の向上」「沿線拠点の活性化」「将来的に成長が見込める事業の拡大」など、今後のさらなる成長に向けた土台作りを行いました。本レポートを読むと、京王グループが従来の活動に加えて上記の3点を重視しながら社会的責任を果たそうとしていることがよく分かります。ステークホルダーの生の声や写真が数多く掲載されており、顔の見えるレポートとなっている点も特徴です。

まず、今回のレポートで最も評価したい点は、京王グループとして初めてCSRアクションプランを公開した点です。昨年度も指摘させていただきましたが、CSRの重点テーマと目標を設定し、一年間のグループの活動を振り返るとともに次年度のプランを策定・公開することは、信頼されるトップカンパニーとして成長し続けるために不可欠です。京王グループのCSRに対する真摯な姿勢を高く評価したいと思います。また、次年度は重要課題の特定とそのプロセスが掲載されることを期待します。

安全報告では、従来通り、「『安全』は最大の使命であり、最高のサービスである」という京王グループの方針にもとづき、安全管理方法、人材の育成、安全文化の構築、危機に備えた訓練、施

設・設備の取り組み、日々の保守管理、災害等への備え、お客様との連携、グループ会社の安全対策などが報告されています。2015年度は、鉄道事業の安全性をより一層高めるべく、25カ所の踏切を廃止する京王線笹塚駅～仙川駅間の連続立体交差事業について用地取得や設計業務を推進しました。また、災害等への備えとして、京王線新宿駅～笹塚駅間のトンネル内の補強や排雪板を装備した牽引車両を導入するなどの対策を講じています。P.28のTOPICSでは、2016年1月に発生した大雪による輸送障害と再発防止策の概要がまとめられていますが、この内容からも分かる通り、京王グループは一つひとつ地道に安全対策を実施しています。鉄道事業者としての第一の社会的責任である輸送の安全性を常に向上させようとする点に、同グループの安全意識の高さを見てとることができます。

社会性報告のパートでは、京王グループが、「『住んでもらえる、選んでもらえる沿線づくり』を推進し、幸せな暮らしを実現する」ために、お客様の利便性・快適性の向上や多世代が生活しやすい沿線づくり、そして、地域社会への貢献に向けて実施している活動がまとめられています。2015年度は、介護付有料老人ホーム「チャームスイート京王聖蹟桜ヶ丘」や保育所を併設した子育て支援賃貸マンション「京王アンフィール国領」を竣工しました。これは、日本が抱える社会的課題を解決するための取り組みであると同時に、同グループにとって、将来的に成長が見込まれる事業分野への参入でもあります。CSRは本業を通じて行うのが最も持続的であると考えられますので、ぜひともこれらを事業として成功させ、継続的に社会に貢献していただきたいと思います。なお、今年度の社会性報告では、社員に関するデータ開示が一層充実した点も高く評価します。

京王グループは、電車の運転用電力を2020年度に2012年度比で10%削減するという中期環境目標を掲げています。2015年度は、2012年度比で約2%削減となりました。同グループは、大手私鉄の中で初めてVVVFインバータ制御装置を全営業車両に搭載し、今年度からはさらに省エネ性能の高い新型VVVFインバータ制御装置を本格導入するなど、環境意識の高い企業体です。従来の取り組みが評価され、今年度は、国土交通省「平成27年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰」を受賞したほか、「日経環境経営度調査」では鉄道業界で1位を獲得しました。鉄道は自動車と比べて環境負荷の面で優位性がありますが、この事実に加え、今後もグループ全体で低炭素化社会・循環型社会の実現に向けて努力していただきたいと思います。